

教育課程連絡協議会構成員名簿

国際医療福祉大学大学院医学研究科公衆衛生学専攻

番号	構成員 区分	氏 名	現所属及び役職名
1	教職員	山本 尚子	国際医療福祉大学 大学院特任教授
2	教職員	池田 俊也	国際医療福祉大学 大学院医学研究科医学専攻教授 大学院医学研究科公衆衛生学専攻教授 医学部医学科教授
3	職業	松谷 有希雄	一般財団法人日本公衆衛生協会理事長
4	職業	國土 典宏	国立研究開発法人国立国際医療研究センター理事長
5	職業	坂元 晴香	東京財団政策研究所主任研究員
6	地域	笠松 恒司	港区みなと保健所長

国際医療福祉大学大学院

第 1 回 教育課程連携協議会



特長とカリキュラム

- 国際性を備えた指導的立場に立つ高度な専門職業人の養成
- 3分野からなる総合的な公衆衛生専門職大学院として幅広い教育の実施
- 医学・公衆衛生学における多数の専門家と、本大学グループの多様な医療機関・施設の活用による充実した教育管理体制
- 英語と日本語のバイリンガルによる大学院教育
- 医師のみならず医療分野・公衆衛生学分野の幅広い人材への公衆衛生教育を実現し、社会人学生にも対応した教育環境の提供

3つの分野

①国際保健・感染症学分野

国際的な健康課題に対して公衆衛生の各種手法を活用し解決のための提案及び企画・実施・評価をします。また論文や報告書、政策提言として社会に発表できる人材を育成します。さらに、様々なステークホルダーとの協働やそれらの調整を行うことができるコミュニケーション能力やコーディネーション能力を有する人材を養成します。

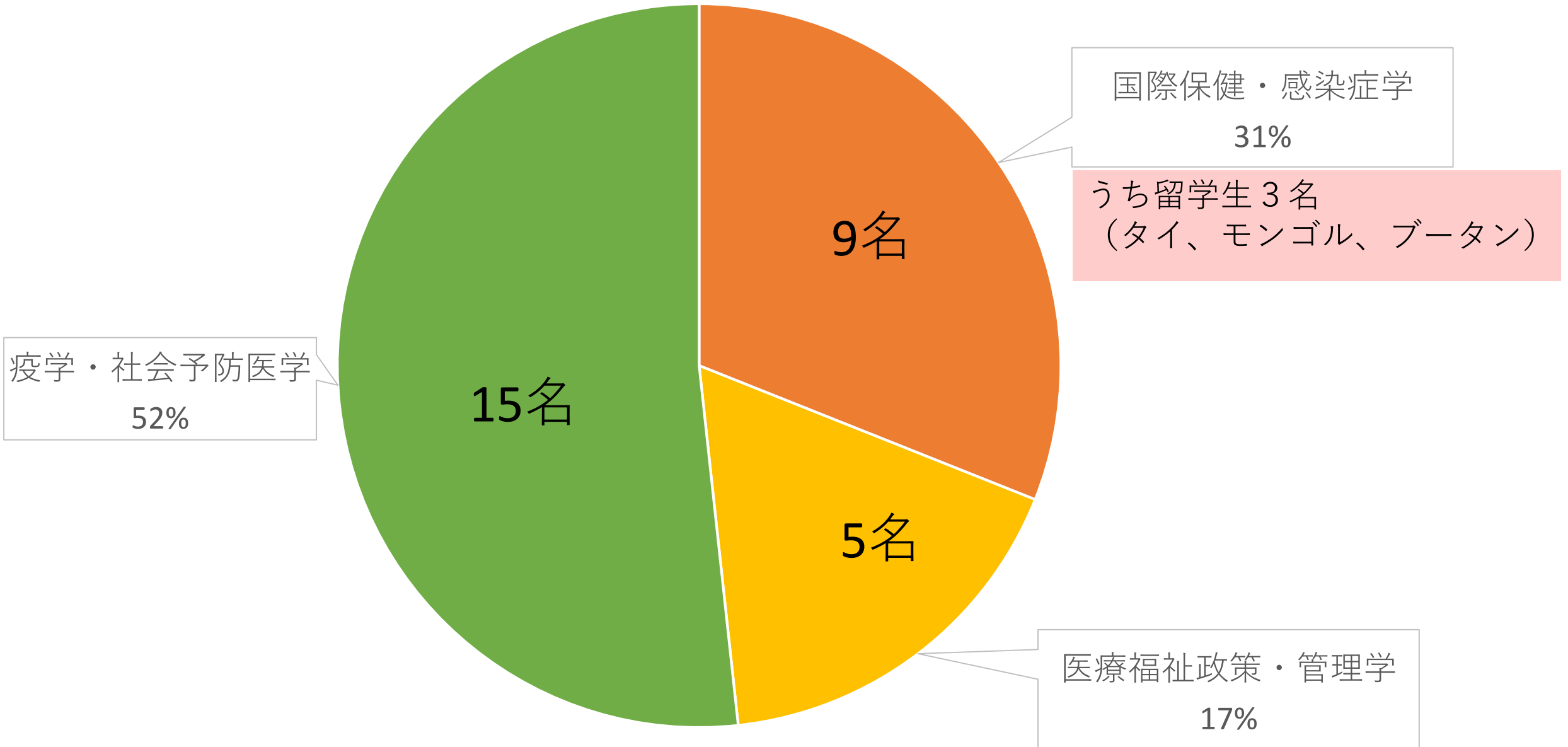
②医療福祉政策・管理学分野

医療・福祉政策に幅広い知見を持ち、政策の現状と課題を理解しながら解決策を打ち出せる人材を育成します。また、日々専門化・複雑化が進む医療福祉の分野で、データを収集・解析し、個々の医療福祉専門領域にフィードバックできる人材またこれらのストラテジーを立案できる人材を育成します。

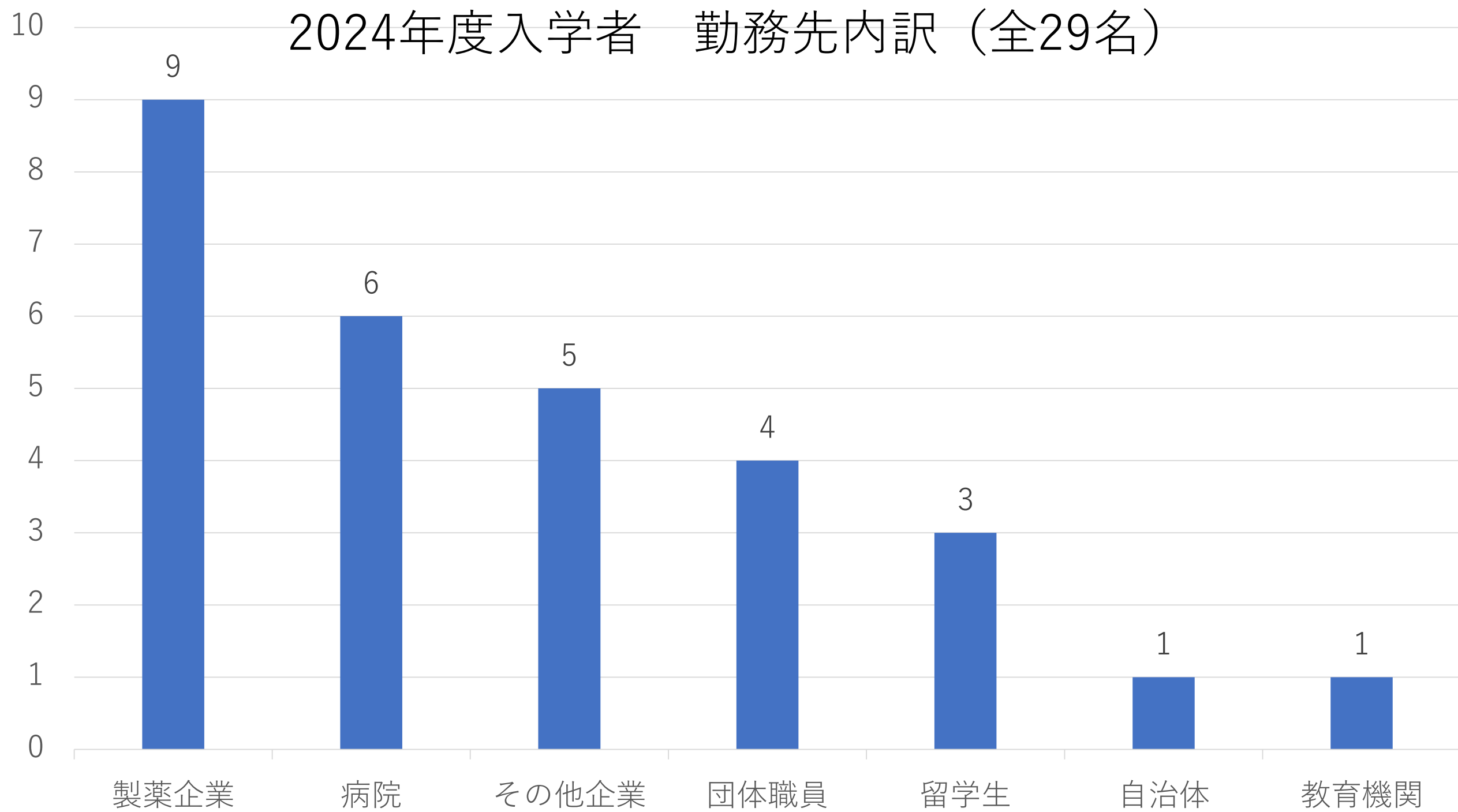
③疫学・社会予防医学分野

臨床試験に不可欠な統計学、医学研究のデザイン等に役立つ疫学、薬剤疫学など、医療全般でのデータ解析・評価ができる専門家を育成します。また、母子保健、老人保健、産業衛生、予防医学など医学・公衆衛生上の諸問題に適切に対処し、課題を解決できる人材を育成します。

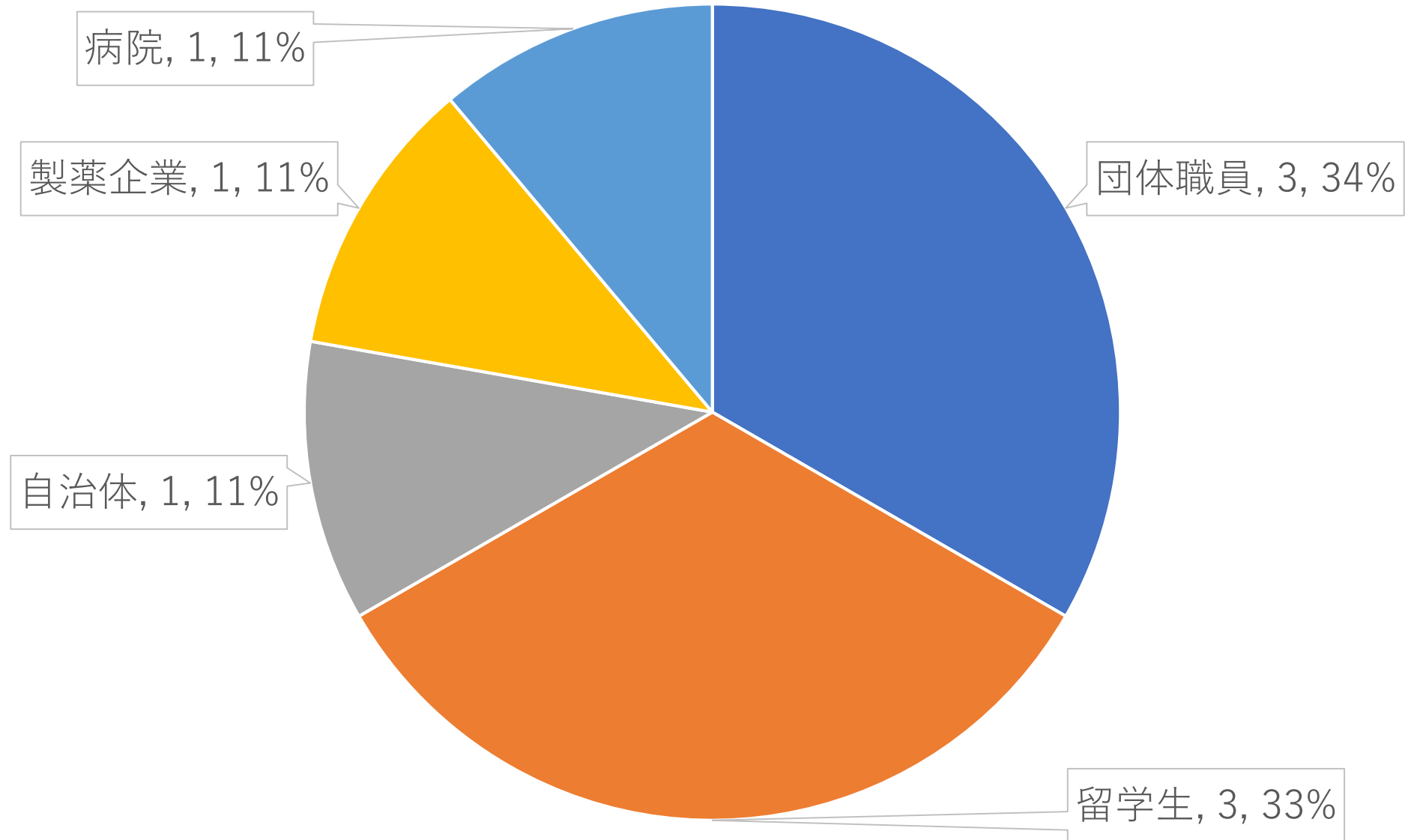
2024年度入学者 分野別学生数（全29名）



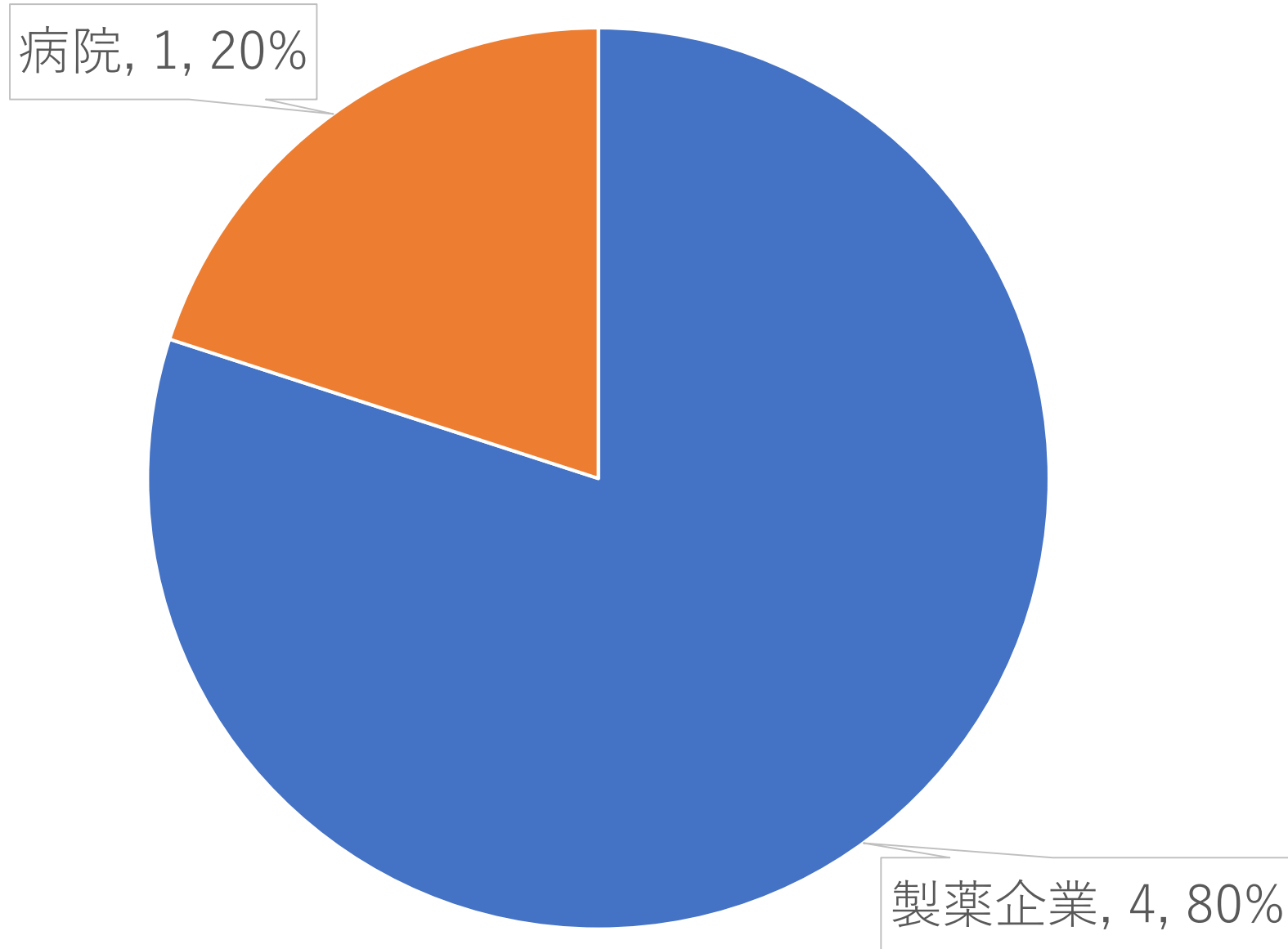
2024年度入学者 勤務先内訳（全29名）



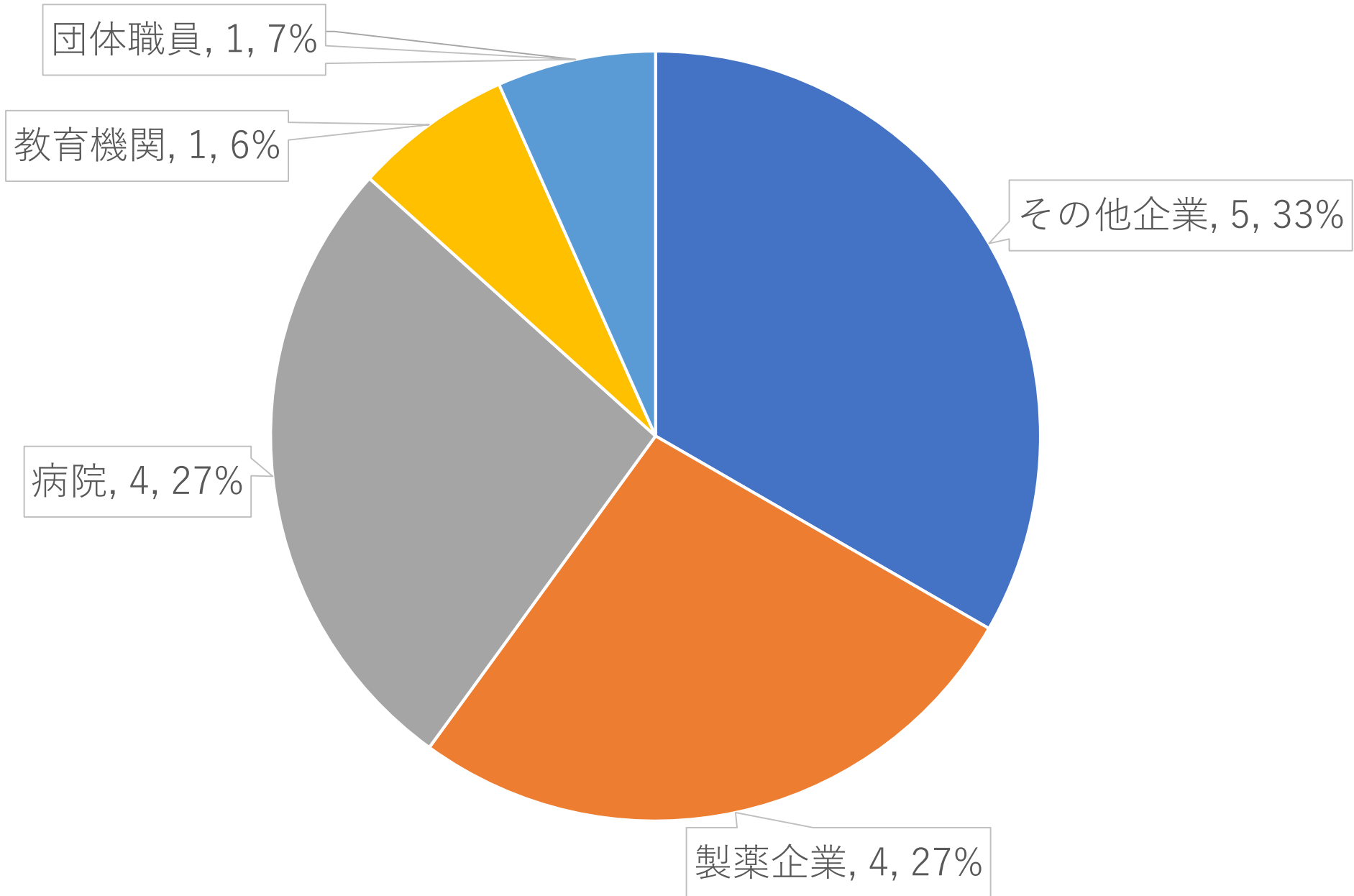
国際保健・感染症学分野（9名）



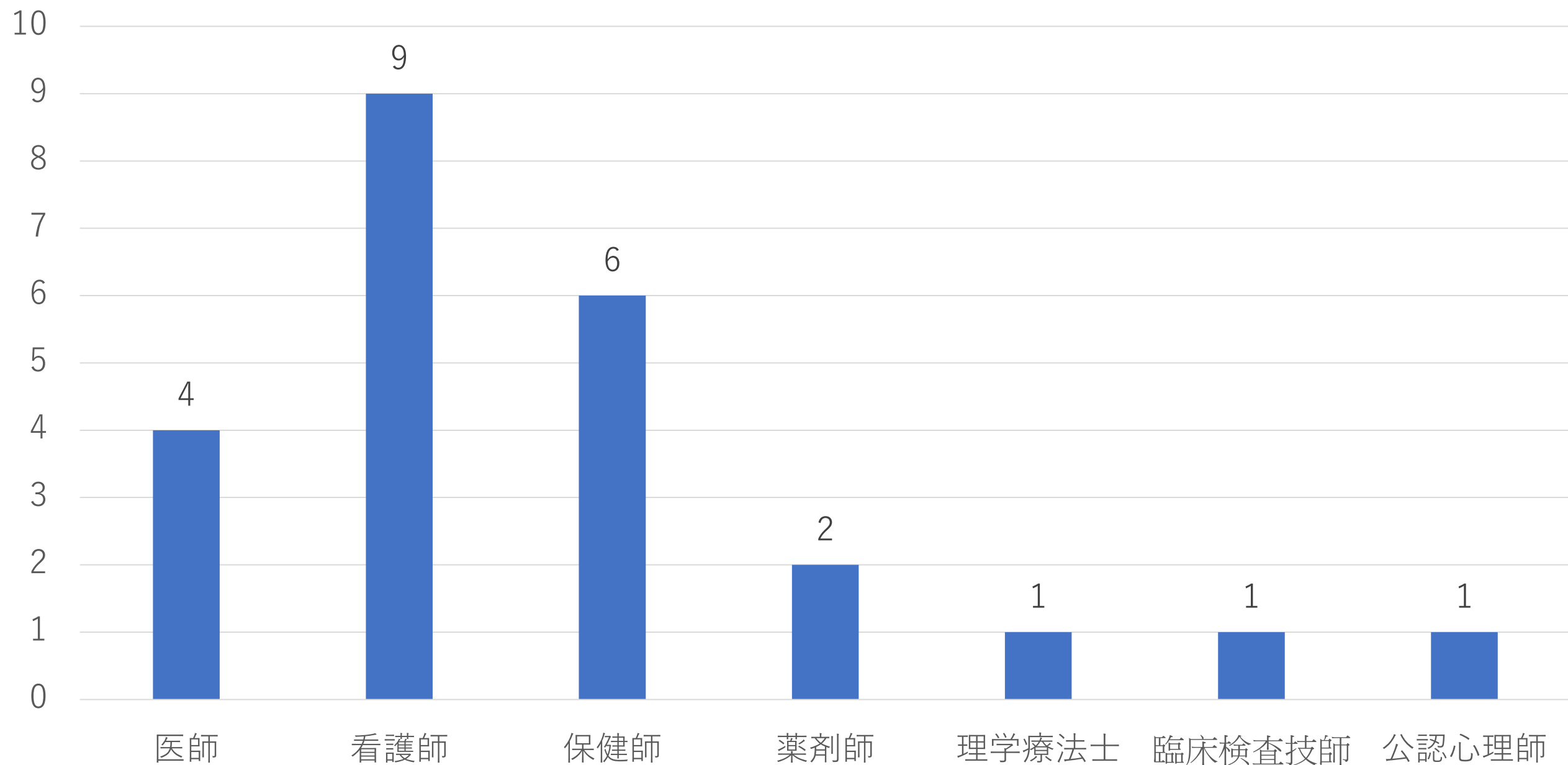
医療福祉政策・管理学分野（5名）



疫学・社会予防医学分野（15名）

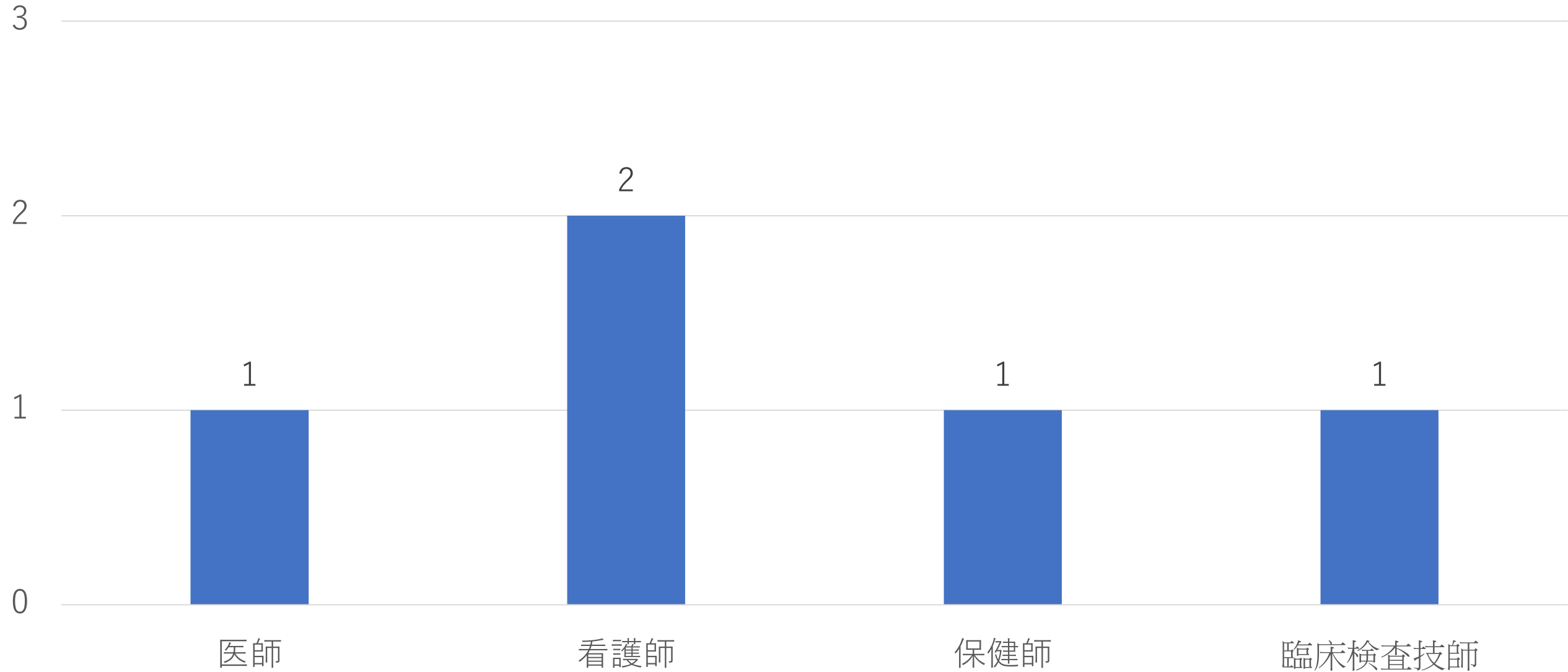


2024年度入学者 資格保持者数



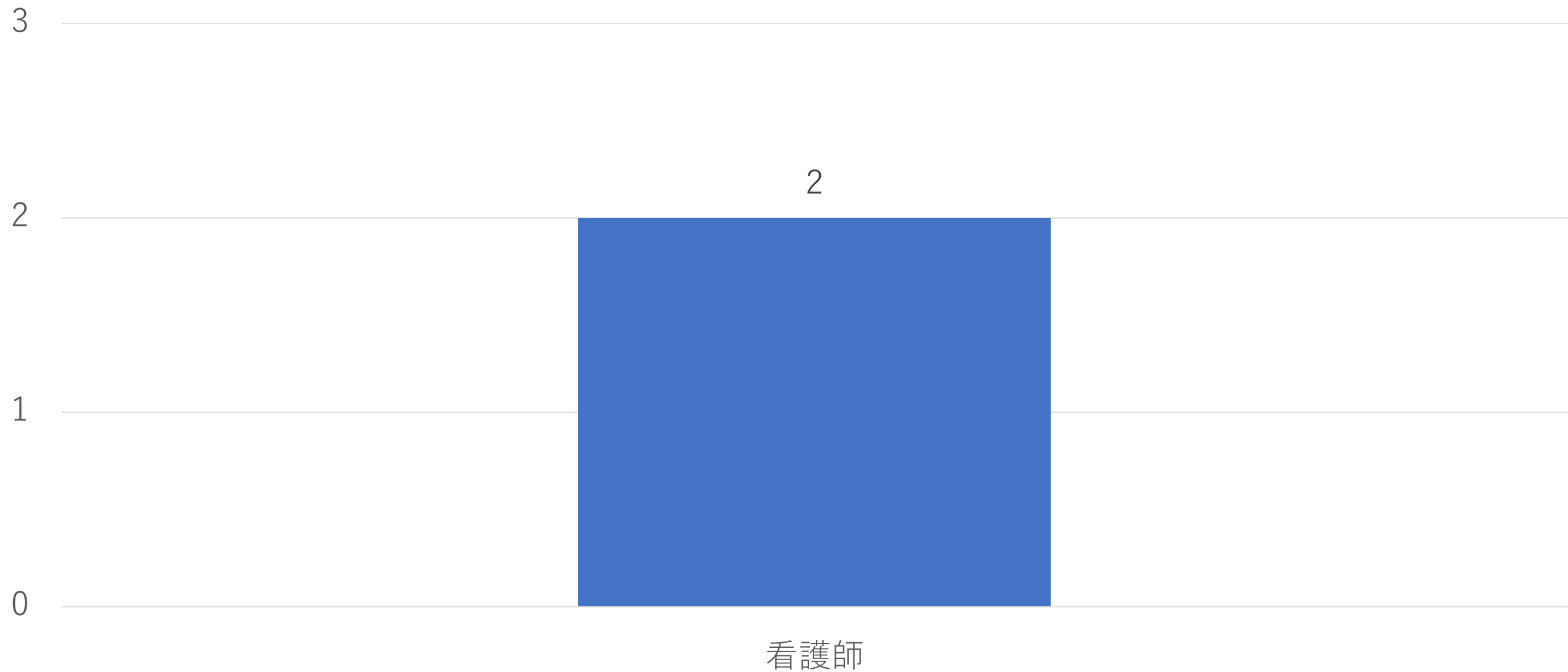
国際保健・感染症学分野（9名）

資格保持者数



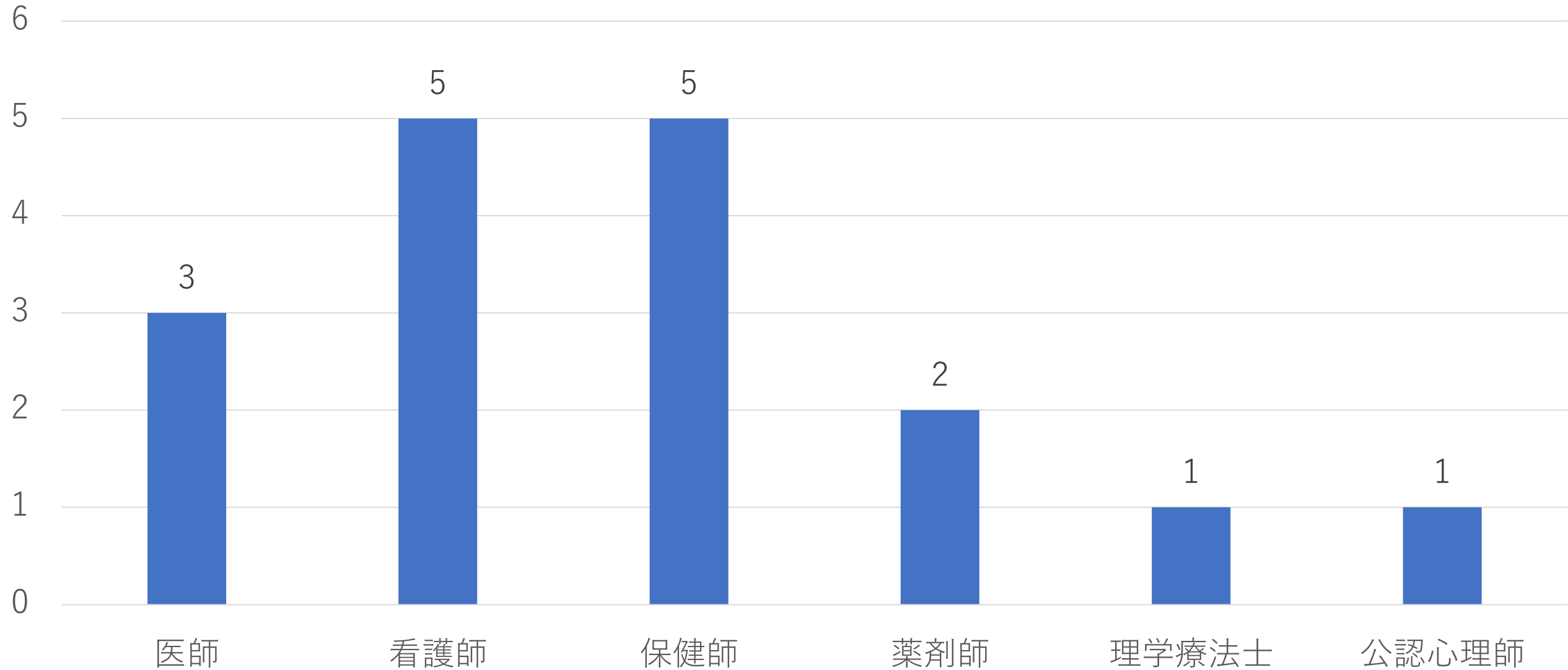
医療福祉政策・管理学分野（5名）

資格保持者数



疫学・社会予防医学分野（15名）

資格保持者数



国際医療福祉大学大学院
第1回 教育課程連携協議会 議事録

日時: 2024 年 10 月 28 日 (月) 10:30~11:30

開催方法: オンラインミーティング

出席者:

- ・学内: 鈴木 康裕 (学長/公衆衛生学専攻主任)、池田 俊也、山本 尚子、横山 宋太郎 (事務局)
- ・外部委員: 松谷有希雄 (日本公衆衛生協会 理事長)、國土 典宏 (国際医療研究センター 理事)、坂本 はるか (聖路加国際大学)、笠松 恒司 (港区みなと保健所 所長) (敬称略)

1. 開会挨拶

鈴木学長より、本協議会が公衆衛生学専攻 (専門職大学院) の設立後、初の開催となることが述べられた。専門職大学院は、8 年前の医学部設置時に文部科学省からの要件の一つとして設置が指示され、2024 年 4 月に開設された経緯が説明された。

2. 入学生に関する情報共有

事務局より、2024 年度の入学生に関する情報が共有された。

- ・学生数: 定員 20 名に対し、29 名が入学。うち 3 名は留学生 (タイ、モンゴル、ブータン)。
- ・分野別内訳:
 - 国際保健・感染症学分野: 9 名 (うち留学生 3 名)
 - 医療福祉政策・管理学分野: 5 名
 - 疫学・社会予防医学分野: 15 名
- ・学生の背景:
 - 入学生は全員が社会人。
 - 勤務先は製薬企業が最も多く、次いで病院、その他企業、団体職員 (JICA など) と続く。
 - 保有資格で最も多いのは看護師・保健師で、医師も 4 名在籍している。
- ・留学生への対応:
 - 留学生は各国の保健省などから推薦を受けた学生である。
 - 国際保健・感染症学分野の授業はすべて英語で実施されている。
 - 疫学や生物統計学など一部の科目は、日本語と英語の授業を並行して開講し、留学生向けには成田キャンパスで対面授業を行うなどの配慮がなされている。
- ・質疑応答・議論:
 - 社会人学生が多いため、平日の夜間授業はオンラインでの参加が中心となり、学生間の交流が課題となっている点が指摘された。
 - 今後は対面での必修授業を通じて、学生同士の交流活発化が期待される。
 - 留学生の学習支援として、オンラインツールの活用 (リアルタイムでの文字起こし機能など) を工夫していく方針が示された。

3. 前期授業の実施状況・授業アンケートの共有

事務局より、前期の授業実施状況とアンケート結果が報告された。

- **授業時間:** 社会人学生が受講しやすいよう、平日は 18 時以降（6 限・7 限）、土曜日に授業を開講している。
- **授業形態:** 授業は教室での対面受講、または同時双方向のリアルタイム配信を原則としている。これは、演習やディスカッションを重視し、教育効果を高めるためである。
- **授業アンケート結果:**
 - **生物統計学概論:** 内容が難しい、課題の難易度が高いといった意見があった。また、学内の Wi-Fi 環境の不安定さも指摘され、今後の検討課題とされた。
 - **疫学概論:** 「興味深く分かりやすかった」など、比較的良好なコメントが多く寄せられた。
 - **その他:** 各科目で学生から様々な意見が寄せられており、今後の授業改善に活かしていくことが確認された。

4. 2024 年度入学生の研究テーマの共有

各分野の学生の研究テーマが資料にて共有された。テーマは「タイにおけるロタウイルスワクチン接種が抗菌薬処方に与える影響」や「DPC データを用いた視神経脊髄炎スペクトラム障害(NMOSD)の診療実態調査」、「日本人成人発達障害（グレーゾーン）者の社会活動における課題」など、多岐にわたっている。

5. インターンシップの実施状況

- **現状:** 今年度は実績がまだないものの、複数の学生からインターンシップの希望が出ている。特に、日本人学生からは保健所の業務や県の健康増進の仕事に関心があるとの声が上がっている。
- **今後の展望:**
 - 国土典宏委員（国際医療研究センター）より、同センターでの見学等の受け入れについて歓迎の意が示された。
 - 坂本はるか委員より、JICA、WHO、国連機関、NGO などでのインターンシップの可能性について情報提供があった。
 - みなと保健所の笠松所長に対し、学生からの希望に応じて相談していくことが確認された。

次回開催予定: 未定